

株主の皆様へ

TOYO GOSEI 第55期 事業報告書

(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

編集後記

当中間期より取り組み始めまして、今回で2回目となりました。株主の皆様へは当社からの単なるご報告書としてだけでなく読み物として楽しんでいただける様、見やすさに工夫を凝らしました。

今後も皆様のご意見を参考にさせていただきながら、より良い事業報告書にしていきたいと思います。些細なことでも結構ですので、ご意見・ご感想などがございましたら、ぜひともお聞かせください。

TEL 047-327-8034 (経営企画部IR担当)

メール配信サービスにご登録下さい。

東洋合成工業に関するニュースリリース等の情報をE-mailでお届けします。当社ホームページのトップページ内にメール配信サービスのボタンがありますのでそこからご登録下さい。

→アドレスは

http://www.toyogosei.co.jp/mail_service.html

アンケートにご協力ください。

ご協力いただいた方のうち抽選で100名様にQUOカード1,000円分を7月下旬に送付させていただきます。
※平成17年7月11日(月)弊社着にて締め切らせていただきます。
※当選者の発表は発送を持ってかえさせていただきます。
※回答欄の下部に必ず株主番号及びお名前・会社名をご記入願います。



※アンケートご記入後、同封のプライバシー保護シールを宛名面の下段に貼って投函してください。
※個人情報保護に配慮し、ご記入いただいた個人情報は当社のIR活動以外に活用することはありません。

東洋合成工業株式会社

〒272-0012 千葉県市川市上妙典1603番地
TEL047-327-8034 FAX047-327-8055
E-mail : ir@toyogosei.co.jp
<http://www.toyogosei.co.jp/>



差出有効期間
平成17年7月29日まで

2728790

千葉県市川市上妙典 1603 番地
東洋合成工業株式会社

経営企画部 行



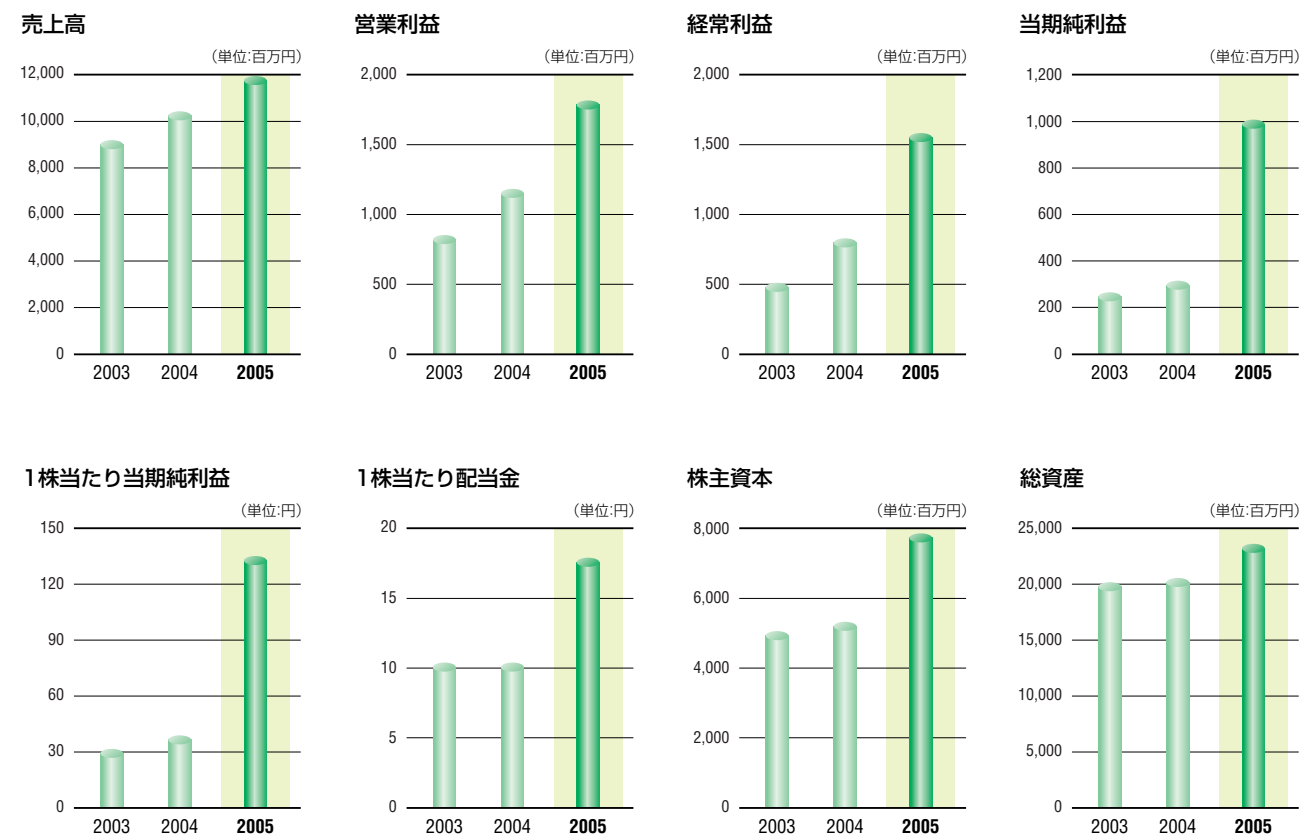
Financial Highlights

決算ハイライト

経営成績	当期 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	前期 (自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)
売上高 (百万円)	11,760	10,195
営業利益 (百万円)	1,775	1,148
経常利益 (百万円)	1,545	794
当期純利益 (百万円)	985	296
1株当たり当期純利益 (円)	132.10	36.44
1株当たり配当金 (円)	17.50	10.00

財政状態	当期 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	前期 (自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)
株主資本 (百万円)	7,714	5,156
総資産 (百万円)	23,105	20,094

※本報告書において百万単位で表示している金額は、単位未満を切り捨てております。



Message to Our Stakeholders

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、このたびの福岡県西方沖地震により被災された皆様には、謹んでお見舞い申し上げ、一日も早く復興されますよう心からお祈り申し上げます。さて、当社の第55期事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

わが国経済は、オリンピック効果もありデジタル家電が急成長し、ハイブリッド車といった日本企業が強い競争力を誇る商品の需要が世界的に拡大したこと、並びに主力輸出市場であるアジアが著しい経済成長を続けていることを背景に、輸出及び設備投資主導で回復が続きました。個人消費も、雇用の改善や購買意欲の持ち直しにより緩やかに増加しました。しかしながら、原油価格の高騰による市況への影響は深刻であり、さらにアメリカ経済の失速懸念によっても先行き不透明感が増幅しております。今回の景気拡大の特徴は、不良債権処理の進展、企業再編の活発化など、企業の経営改革が長期的に進み、企業体質が強化されたことです。今後、金融の量的緩和政策が継続されるもとで、政府が規制改革や財政再建に取り組み、各企業が更なる自己改革と成長分野への資源配分を強化することによって、景気が安定的かつ持続的に成長することが期待されます。

こうした経済環境の中、当社の関連業界の半導体・電子部品業界は、期初はDVDレコーダー、デジタルカメラ、薄型テレビを中心にデジタル家電の販売が好調に推移しましたが、後半は過剰生産で値崩れし、在庫調整が続きました。しかしながら長期的には、今後の成長も期待され、需要の増加に備えて設備投資は拡大局面にあります。しかし、もう一方の関連業界である化学産業界は、コアビジネスの強化、高付加価値領域への戦略展開による収益拡大を目指すとともにますます高まる環境、安全対策に対応を迫られております。

このような情勢下、当社は、感光性材料の需要増大に応じ、更なる増産体制の整備を進め、一方でイオン性液体及び電解

液の量産設備も完成し、新たなる分野への進出も果たしております。欧州中心の香料材料の営業展開は、ロッテルダムにストック倉庫が稼働し始め、引き続き市場開拓と売上増加にも努力いたしました。また、昨年9月で創業50周年を迎えることができ、新たなる半世紀へ向けての第一歩をより確かなものにするためにコーポレートガバナンスの強化に引き続き努めてまいります。記念すべき年に当社は増収増益という成果をあげることができました。これもひとえに皆様方のご支援の賜物と心から感謝いたします。

今後とも経営資源の最適な配分と財務体質の健全性維持に努め、株主価値の最大化を期してまいります。一層の全社的なコンプライアンス体制を整備し、企業倫理の徹底を図る一方、環境保全にも配慮しつつ事業を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月



代表取締役社長 木村正揮



第三感光材工場の増築(H16.10)

千葉工場内の第三感光材工場を増築いたしました。
当増築部分で量産されるイオン性液体、電解液はリチウムイオン電池、キャパシタ及び色素増感太陽電池の電解液、反応溶媒及び抽出溶媒として使用されます。

単元株の変更(H16.10) 株主優待制度の導入(H16.11)

より多くの株主様にご購入いただくため、株式の単元を1,000株から100株に変更いたしました。また期末に100株以上保有の株主様へ2,000円相当の千葉県特産品を贈呈する株主優待制度を導入いたしました。



東庄ふれあい祭り(H16.11)

千葉工場の地元である千葉県香取郡東庄町で地域社会とのコミュニケーション活動として東庄ふれあい祭りに参加いたしました。祭りではイベントを実施して地域住民とのふれあいを図り、2004年に災害防止対策用として購入した当社自衛消防車の参加、町民に消火器を進呈する等、消防活動を通じた地元への貢献に取り組んでおります。

2004年度TPM優秀賞(H16.12)

当社千葉工場が「TPM優秀賞第1類」を受賞いたしました。

※TPM優秀賞とは、設備管理の近代化と設備管理技術の開発を促進することにより、企業の体質改善・強化を図り、もって産業界の発展に寄与するために(社)日本プラントメンテナンス協会が1964年(昭和39年)に制定したPM賞のうちの一つです。



日本版401K導入(H17.02)

従業員の労働意欲、金融知識の向上や導入済み企業から優秀な人材の確保を目的として確定拠出年金(日本版401K)を導入いたしました。

これは千葉県内上場企業ではイオン(株)様、(株)ファミリー様に続き3社目となります。



HPフルリニューアル(H17.03)

1998年(平成10年)に開設されましたホームページを一新いたしました。フレッシュな情報発信ツールとして株主の皆様にご利用いただくべく、特にIR情報を充実させています。

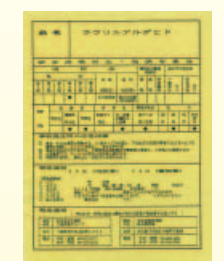
<http://www.toyogosei.co.jp/>

環境への取り組み

当社では社会的責任を果たすため、その第一歩として2004年より環境レポートを作成し、環境にやさしいハイブリッド車を各事業所に導入しております。

化学品を安全に取り扱い、使用していただくため、法律で規制されている化学品だけではなく、提供するすべての製品に対して逐次危険性・有害性情報を収集し、最新情報を製品安全データシート(MSDS)に反映させ提供しています。また、化学品の輸送中の緊急事態に備えて、その応急措置を記載したイエローカードも輸送者に常時携帯することを指導・助言し、安全輸送に努めています。

また1994年の市川工場感光性材料製造部門のISO9002取得を皮切りとして1995年には市川工場化成成品製造部門が、1996年に千葉工場、高浜油槽所がISO9002を取得しております。現在、高浜油槽所がISO9001を、市川工場と千葉工場がISO9001とISO14001を取得しています。



Segmental Information

各事業部門のご紹介

■ 感光性材料事業

Photosensitive Materials Business



マイクロBUで製造を行っております最先端のテクノロジーを支える感光材は半導体集積回路の製造に加え、液晶ディスプレイ等の微細電子デバイステクノロジーを利用した製品の量産には欠かせない存在です。当社は、10年、20年先を見据えた研究・開発に取り組んできました。さらに、高純度かつ安定品質の製品を量産することにより、高い評価をいただいております。

エネルギーBUでは電子部品の内部液用途として、イオン性液体及び電解液の量産設備を有しております。感光材で培った合成方法、精製方法及び分析方法を水平展開することにより、安定した品質の製品を供給できる体制を構築しております。

■ 化成品事業

Chemicals Business



香料材料BUでは、アルコール、アルデヒド、ケトン、エーテル、脂肪酸、エステル等、一連のカーボニル化合物を原料として、世界の大手香料メーカーに香料材料を供給しています。

また、オランダ・ロッテルダムに物流基地を設け、欧州を中心とする営業展開を図っております。

グリーンケミカルBUでは、揮発性有機化合物(VOC)の回収リサイクル事業を開始し、VOC回収装置の設置と、装置で集めたVOCを回収処理し、リサイクルビジネス展開を積極的に取り組み、環境の保全に貢献しております。

■ ロジスティック事業

Logistics Business



当社の高浜油槽所は、市川港に3基の棧橋を有し、月間200隻に対応するとともに、首都圏の高速道路網に容易にアクセスできる大変便利な立地条件が強みです。4万3,000m²の敷地内には、化学品保税タンク61基が設置されているほか、危険物立体自動倉庫などの最新設備により、効率的なサービスを提供しております。

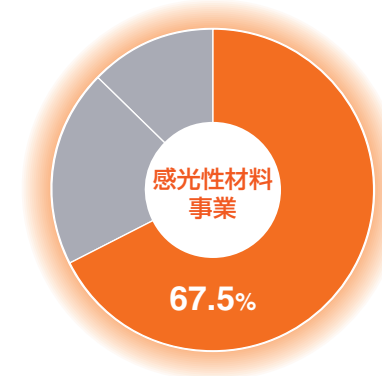
Business Overview

事業別の概況

■ 感光性材料事業

感光性材料事業の主要関連産業である半導体・電子部品業界は、DVDレコーダー、デジタルカメラ、薄型テレビなどのデジタル家電の好調な売行きにより、業績を引き続き堅調に伸ばしております。

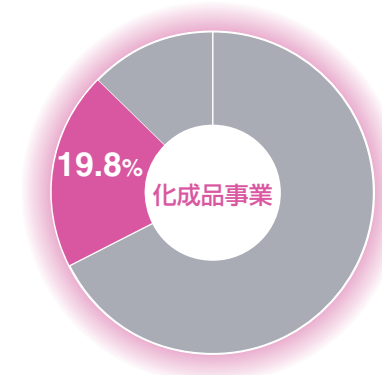
こうした状況を受け、若干の在庫調整等の影響は見られたものの感光性材料の需要は期初より増加し続けており、用途別の売上高では、半導体向けが32.3%増加し、液晶向けが10.2%増加した結果、当事業の売上高は7,942百万円(前年同期比+1,145百万円、+16.9%)となりました。



■ 化成品事業

化成品事業の関連業界である汎用化学品業界の国際競争は激しさを増しており、厳しい経営環境にあります。

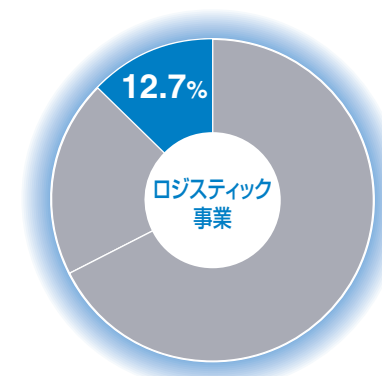
こうしたなか、当社は欧州市場中心の香料材料の販売が奏功し、用途別の売上高では、香料材料が38.7%増加し、当事業の売上高は2,331百万円(前年同期比+350百万円、+17.7%)となりました。

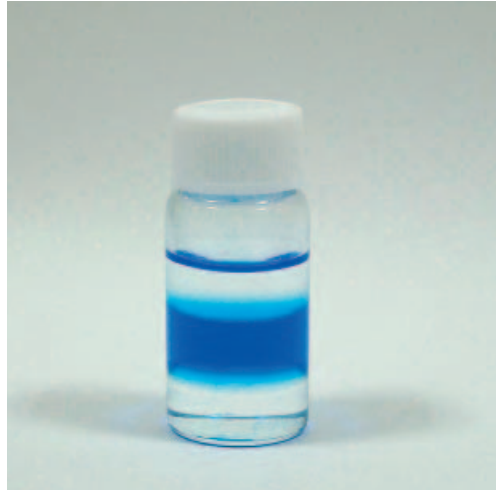


■ ロジスティック事業

物流コスト削減のための物流基地の見直し、集約化の動きは続いており当事業を取り巻く環境は依然厳しい状況にあります。当社は、こうした厳しい環境に打ち勝つため、立地条件の良さと生産活動で培った液体化学品の高度な取扱・保管技術を背景に精力的な営業活動を展開いたしました。

景気回復の兆しの中、液体化学品の物流量が増加し、タンク部門・ドラム倉庫部門共に稼働率が好調に推移し、当事業の売上高は1,486百万円(前年同期比+68百万円、+4.8%)となりました。





■ イオン性液体

通常、塩は常温では固体であります。特定の有機の陽イオンと陰イオンの組み合わせによって生まれた常温で液体の状態である塩を常温溶融塩、イオン性液体と呼び、産業界、大学等から大きな注目を集めています。用途としては高イオン伝導性、広電位窓を利用したキャパシタ、燃料電池、色素増感型太陽電池等の電解質やリチウム電池等の二次電池用電解液や不揮発性、高耐熱性、不燃性を利用した宇宙、高真空下での媒体、不燃性、不揮発性のため安全性の高い高温熱媒、リサイクル可能な反応溶媒（クリーン溶媒）、ペアリリング等の潤滑剤等があげられます。

当社のイオン性液体は他社様に比べ高純度、低メタル、低ハライドイオン、低水分という特徴を持っており、大変高い評価をいただいております。



■ 電解液

広義には、電気を通す液体を総称して電解液と言いますが、当社で製造しております電解液は、蓄電デバイス（リチウムイオン二次電池や電気二重層キャパシタなど）の内部液として使用される電子部品向け高純度品になります。

近年、携帯電話などのモバイルツールの高性能化、あるいはハイブリッド車の普及、燃料電池車の登場により、高純度かつ高性能な電解液のニーズが高まってきております。当社では、半導体製造に使用される感光性材料の品質管理手法を応用し、高純度品の生産が可能です。

昨年9月に、最新鋭の生産設備を導入したことにより、電解液で月産数10トン、イオン性液体で月産数トンの供給が可能となり、質的にも量的にもお客様の様々なご要望にお応えできる体制を整えております。



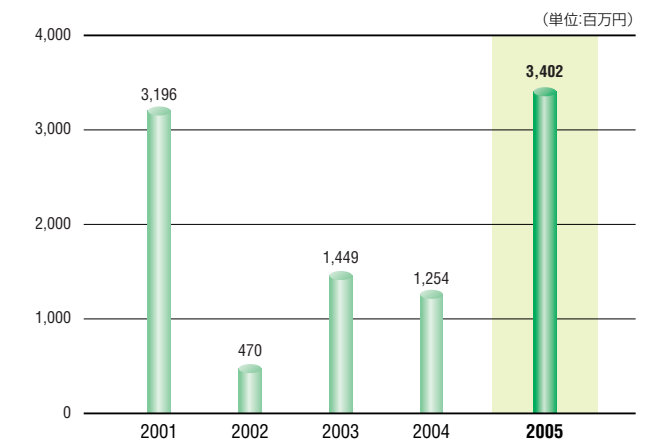
■ VOC規制

2006年、大気汚染防止法の規制が強化されるのを受け大気中に排出される揮発性有機化合物（VOC）の排出濃度基準をクリアさせるために塗装、接着剤、印刷業界ではVOC削減への取り組みを加速しています。当社では、大気に排出されるVOCガスをキャッチできるPSA装置の設置と、回収した溶剤の精製リサイクル事業を進め環境の改善に貢献しています。前期より既にグラビア印刷、粘着テープ、液晶ディスプレイ製造工程のVOC排出削減等実績を上げております。

■ 設備投資額について

平成17年3月期は3,402百万円の設備投資を実施いたしました。感光性材料事業におきましては、当社千葉工場にArF製造設備を747百万円にて、第3感光材工場を1,129百万円にて増設いたしました。また、化成品事業におきましては、当社市川工場にヘキサソルジオール製造設備を110百万円にて新設いたしました。

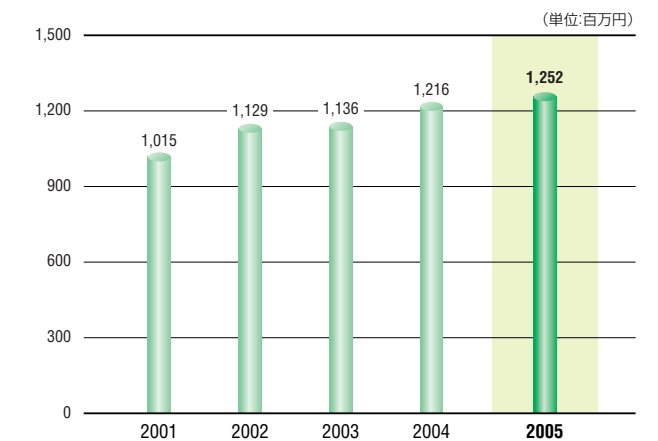
設備投資額推移



■ 減価償却費について

平成17年3月期の減価償却費は1,252百万円となりました。主な償却費の内訳といたしましては機械装置が695百万円、建物が229百万円、構築物が184百万円となりました。

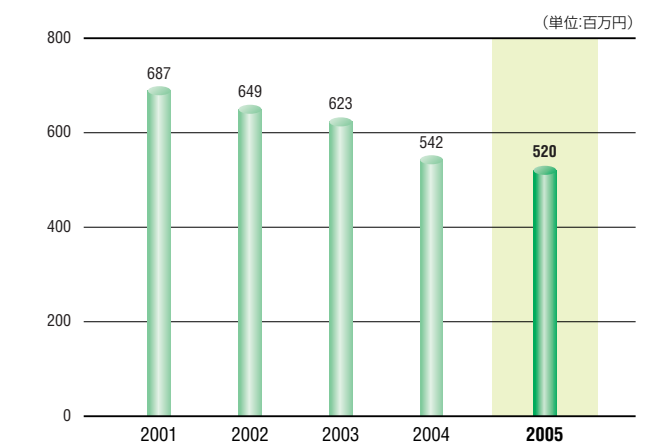
減価償却費推移



■ 研究開発費について

当社の研究開発部門としては、感光材研究所において半導体フォトリソスト用感光材の研究開発、ディスプレイ用感光材の研究開発を行っており、市川工場プロセス研究開発グループではコストダウンのための工学的研究、ならびに化成品、特に香料材料の研究開発を行っております。また、千葉工場プロセス開発グループは、研究所で開発した光・電子材料に関連する感光性材料の工学的研究と工業化研究を行っております。平成17年3月期の研究開発費の総額は520百万円となりました。

研究開発費



■ 貸借対照表

科目	期別	
	当期 平成17年3月31日現在	前期 平成16年3月31日現在
資産の部		
流動資産	8,162,137	7,380,838
現金・預金	1,240,706	1,732,985
受取手形	330,757	191,259
売掛金	2,431,977	2,207,603
製品	3,077,888	2,387,717
原材料	551,303	447,578
仕掛品	142,924	191,137
貯蔵品	34,409	23,051
前払費用	40,787	42,322
未収金	131,294	22,809
繰延税金資産	182,916	136,454
その他	135	588
貸倒引当金	△ 2,964	△ 2,670
固定資産	14,943,741	12,713,713
有形固定資産	13,908,161	11,766,572
建物	3,378,900	2,888,753
構築物	1,663,792	1,516,305
機械装置	3,822,220	3,052,648
船舶	252	252
車両運搬具	14,706	9,605
工具器具及び備品	285,431	232,830
土地	3,973,392	3,770,306
建設仮勘定	769,465	295,868
無形固定資産	192,365	203,622
借地権	100,000	100,000
ソフトウエア	88,507	96,908
その他	3,857	6,713
投資その他の資産	843,214	743,519
投資有価証券	393,360	348,595
子会社株式	48,800	48,800
出資金	600	600
従業員長期貸付金	3,515	3,133
繰延税金資産	179,212	132,773
その他	238,366	231,780
貸倒引当金	△ 20,640	△ 22,162
資産合計	23,105,878	20,094,552

(千円未満切捨表示)

科目	期別	
	当期 平成17年3月31日現在	前期 平成16年3月31日現在
負債の部		
流動負債	9,976,254	7,994,867
支払手形	1,119,115	809,968
買掛金	773,899	610,671
短期借入金	2,600,000	2,500,000
一年内返済予定長期借入金	2,599,500	2,696,705
未払金	795,663	467,134
未払費用	108,798	95,393
未払法人税等	553,832	222,924
預り金	9,279	8,497
賞与引当金	227,364	249,691
設備関係支払手形	1,169,277	332,350
その他	19,524	1,529
固定負債	5,415,181	6,943,572
長期借入金	4,465,045	6,127,795
退職給付引当金	854,802	712,998
役員退職慰労引当金	95,333	102,779
負債合計	15,391,435	14,938,439
資本金	1,618,888	800,088
資本剰余金	1,541,589	695,397
資本準備金	1,514,197	695,397
その他資本剰余金	27,391	—
自己株式処分差益	27,391	—
利益剰余金	4,471,163	3,615,657
利益準備金	110,769	110,769
任意積立金	3,319,841	3,169,841
固定資産圧縮記帳積立金	219,841	219,841
別途積立金	3,100,000	2,950,000
当期末処分利益	1,040,553	335,047
株式等評価差額金	83,491	56,662
自己株式	△ 690	△ 11,694
資本合計	7,714,443	5,156,112
負債及び資本合計	23,105,878	20,094,552

■ 損益計算書

科目	期別	
	当期 自平成16年4月1日 至平成17年3月31日	前期 自平成15年4月1日 至平成16年3月31日
営業収益	11,760,707	10,195,671
売上高	11,760,707	10,195,671
営業費用	9,984,991	9,047,554
売上原価	8,249,490	7,427,942
販売費及び一般管理費	1,735,501	1,619,611
営業利益	1,775,715	1,148,116
営業外収益	61,817	50,589
受取利息	299	474
受取配当金	6,732	9,018
その他の営業外収益	54,785	41,096
営業外費用	291,813	403,776
支払利息	223,008	240,437
その他の営業外費用	68,804	163,339
経常利益	1,545,719	794,929
特別利益	28,849	10,684
固定資産売却益	493	20
貸倒引当金戻入益	1,850	1,332
賞与引当金戻入益	26,505	9,331
特別損失	23,694	234,611
固定資産売却損	3,922	31,241
固定資産除却損	19,112	7,760
ゴルフ会員権評価損	660	—
子会社株式売却損	—	195,610
税引前当期純利益	1,550,874	571,002
法人税、住民税及び事業税	676,500	295,000
過年度法人税等修正額	—	69,892
法人税等調整額	△ 111,118	△ 90,649
当期純利益	985,493	296,759
前期繰越利益	107,252	73,082
中間配当額	52,192	34,794
当期末処分利益	1,040,553	335,047

(千円未満切捨表示)

■ 利益処分

科目	期別	
	当期 自平成16年4月1日 至平成17年3月31日	前期 自平成15年4月1日 至平成16年3月31日
当期末処分利益	1,040,553	335,047
これを次のとおり処分いたします。		
利益処分量	926,415	227,794
利益配当金	81,415 (1株につき10円)	34,794 (1株につき5円)
役員賞与金	45,000	43,000
(内監査役賞与金)	(6,300)	(5,460)
別途積立金	800,000	150,000
次期繰越利益	114,137	107,252

(注) 1. 平成15年12月10日付で34,794,850円(1株につき5円)の中間配当を実施いたしました。
2. 平成16年12月10日付で52,192,275円(1株につき7円50銭)の中間配当を実施いたしました。

Financial Statements

財務諸表

■ キャッシュ・フロー計算書

(千円未満切捨表示)

科目	期別	当期	前期
		自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日	自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日
I 営業活動によるキャッシュ・フロー		1,785,019	—
税引前当期純利益		1,550,874	—
減価償却費		1,252,540	—
引当金の増減額		110,802	—
受取利息及び受取配当金		△ 7,032	—
支払利息		223,008	—
固定資産除却損		19,112	—
固定資産売却損		3,922	—
固定資産売却益		△ 493	—
損害賠償金		16,260	—
売上債権の増減額		△ 363,872	—
たな卸資産の増減額		△ 757,039	—
仕入債務の増減額		472,374	—
消費税の増減額		△ 147,037	—
その他		57,207	—
役員賞与の支払額		△ 43,000	—
小計		2,387,626	—
利息及び配当金の受取額		7,019	—
利息の支払額		△ 224,085	—
損害賠償金の支払額		△ 16,260	—
法人税等の支払額		△ 369,281	—
II 投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,543,487	—
定期預金預入による支出		△ 239,600	—
定期預金解約による収入		903,600	—
有形固定資産の取得による支出		△ 2,196,025	—
有形固定資産の売却による収入		14,379	—
有形固定資産の除却による支出		△ 17,578	—
無形固定資産の取得による支出		△ 8,259	—
投資有価証券の取得による支出		△ 718	—
投資有価証券の償還による収入		1,000	—
貸付による支出		△ 2,700	—
貸付金の回収による収入		2,317	—
その他		97	—
III 財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 69,886	—
短期借入れによる収入		7,450,000	—
短期借入金の返済による支出		△ 7,350,000	—
長期借入れによる収入		1,000,000	—
長期借入金の返済による支出		△ 2,759,955	—
株式の発行による収入		1,637,600	—
自己株式の取得による支出		△ 72	—
自己株式の売却による収入		38,468	—
配当金の支払額		△ 85,927	—
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額		76	—
V 現金及び現金同等物の増減額		171,721	—
VI 現金及び現金同等物の期首残高		496,285	—
VII 現金及び現金同等物の期末残高		668,006	—

(注) 当期からキャッシュ・フロー計算書を作成しているため、前期は記載しておりません。

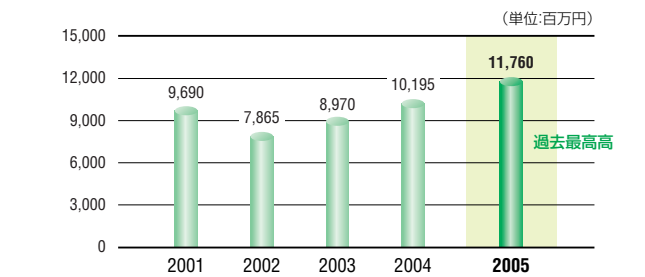
Financial Data

業績等の推移

売上高

半導体・電子部品の業界の事業環境の好調さを受け、主力の感光性材料事業の売上高が大幅に増加し、また、化成品事業・ロジスティック事業共に堅調に推移したこともあって、平成17年3月期の売上高は11,760百万円(前期比+1,565百万円、+15.4%)となりました。

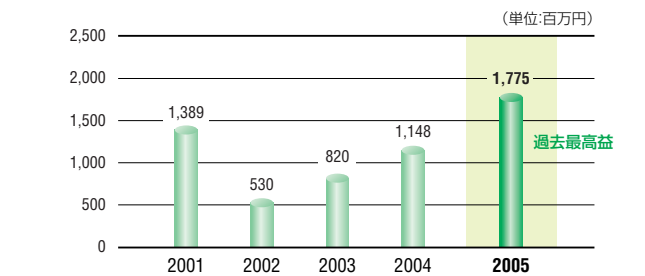
売上高



営業利益

感光性材料事業の工場稼働率、また、ロジスティック事業のタンク部門・ドラム倉庫部門共に向上し、全体として売上総利益は3,511百万円(前期比+743百万円、+26.9%)となり、結果として平成17年3月期の営業利益は1,775百万円(前期比+627百万円、+54.6%)となりました。

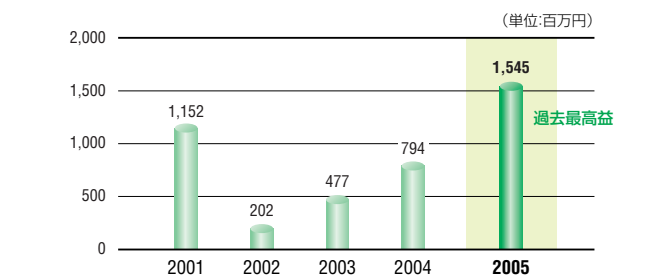
営業利益



経常利益

受取技術指導料の増加、並びに支払利息の減少により、平成17年3月期の経常利益は1,545百万円(前期比+750百万円、+94.4%)となりました。

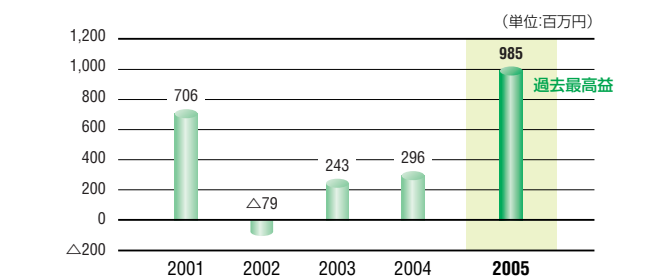
経常利益



当期純利益

平成17年3月期の当期純利益は985百万円(前期比+688百万円、+232.1%)となりました。

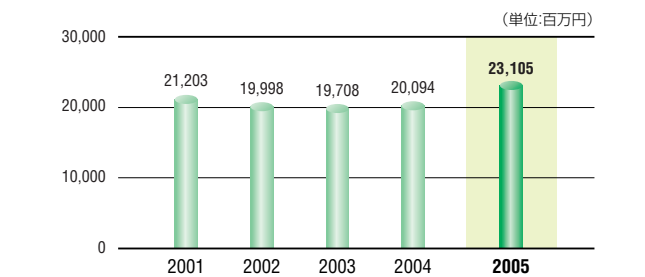
当期純利益



総資産

平成17年3月期の総資産は23,105百万円(前期比+3,011百万円、+15.0%)となりました。

総資産



Stock Information

株式の状況 (平成17年3月31日現在)

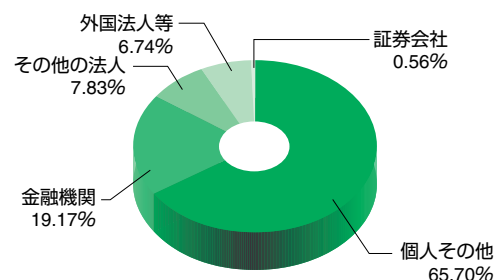
■ 会社が発行する株式の総数	20,000,000株
■ 発行済株式総数	8,143,390株
■ 株主数	3,711名
■ 大株主	

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
木村正輝	1,760,470	21.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	389,800	4.79
木村有仁	313,100	3.85
木村愛理	313,000	3.85
株式会社千葉銀行	298,100	3.66
株式会社東京都民銀行	298,000	3.66
片岡文子	240,000	2.95
木村源四郎	210,100	2.58
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカ운ツ イー アイエスジー	204,400	2.51
学校法人早稲田大学	200,000	2.46

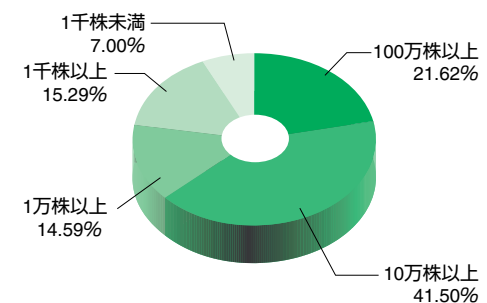
株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬
配当金受領株主確定日	3月31日 中間配当を実施するときは9月30日
基準日	毎年3月31日 ※その他必要がある場合は、予め公告いたします。
1単元の株式数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞 決算公告については、当社ホームページ (http://www.toyogosei.co.jp/)に掲載しております。
株式名義書換代理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵便物送付先及び連絡先)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 03-5213-5213(代表)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
単元未満株式の買取請求	単元未満株式の買取りは上記の名義書換代理人の事務取扱場所及び取次所でお取扱いいたしております。

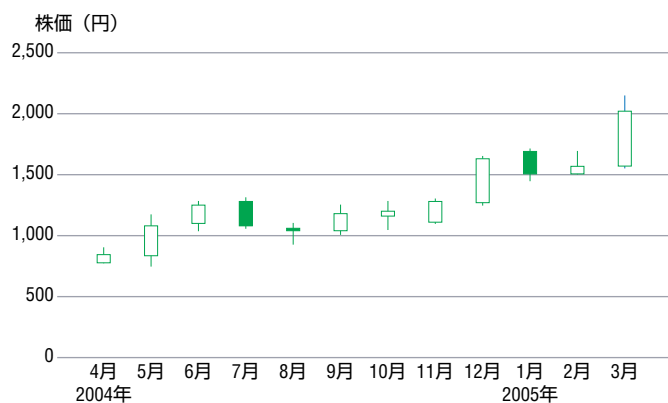
所有者別株式分布状況



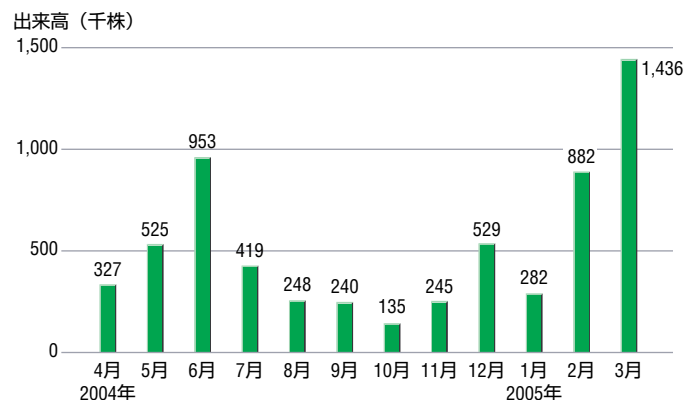
所有株数別株式分布状況



株価の推移



株式売買高の推移



Corporate Profile

会社の概要 (平成17年3月31日現在)

- 商号 東洋合成工業株式会社
- 設立 昭和29年9月27日
- 資本金 1,618,888,703円
- 従業員数 312名
- 事業内容 有機工業薬品・有機溶剤等の製造ならびに販売
画像形成用の感光性材料等の製造ならびに販売
電子表示機器の材料等の開発・製造ならびに販売
倉庫業(液体化学品の保管管理)
貨物運送取扱業

- 事業所 東京営業所
東京都中央区八丁堀4丁目13番1号
高浜油槽所
千葉県市川市高浜町7番地
感光材研究所
千葉県印旛郡印旛村若萩4丁目2番地1
市川工場
千葉県市川市上妙典1603番地
千葉工場
千葉県香取郡東庄町宮野台1番51号
ヨーロッパ事務所
Teleport Towers Kingsfordweg 151
1043 GR Amsterdam The Netherlands

■ 関係会社 TG Finetech Inc.

- 役員 代表取締役社長 木村正輝
専務取締役 春田雅彦(総務部長)
取締役 菊池薫(感光材事業本部長)
菊地英夫(新規事業開発部長)
木村正子(海外部長)
越後谷桂之介
(大塚化学ホールディングス(株)取締役)
監査役 伊藤衛(常勤)
青木久昂
岡野早苗
柴田武弘



株主の皆様へアンケートのお願い

※各質問に対する回答を、□内に○をして下さい。

Q1. どこで当社をお知りになりましたか？

<input type="checkbox"/> 証券会社	具体的に[]
<input type="checkbox"/> 新聞広告	具体的に[]
<input type="checkbox"/> テレビ/ラジオCM	具体的に[]
<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌記事	具体的に[]
<input type="checkbox"/> WEBサイト、メールマガジン	具体的に[]
<input type="checkbox"/> 知人の紹介	
<input type="checkbox"/> その他	具体的に[]

Q2. 当社について関心を持っていただいた理由は何ですか？(複数回答可)

<input type="checkbox"/> 経営理念・ビジョン	<input type="checkbox"/> 事業内容	<input type="checkbox"/> 株価	<input type="checkbox"/> 配当
<input type="checkbox"/> その他			

Q3. 当社の株式を最初に購入したのはいつですか？購入理由は何でしょうか？

■購入時期 平成[]年[]月頃

<input type="checkbox"/> 将来性	<input type="checkbox"/> 収益性	<input type="checkbox"/> 経営理念	<input type="checkbox"/> 事業内容
<input type="checkbox"/> 財務内容	<input type="checkbox"/> 株価の割安感	<input type="checkbox"/> 証券会社の勧め	<input type="checkbox"/> 配当
<input type="checkbox"/> その他	具体的に[]		

Q4. 当社の株式の保有について、今後どのような方針をお持ちですか？

<input type="checkbox"/> 売却	<input type="checkbox"/> 長期保有	<input type="checkbox"/> 買い増し	<input type="checkbox"/> 未定
<input type="checkbox"/> その他			

Q5. 株式投資に関する情報源は？(複数回答可)

<input type="checkbox"/> 投資先企業のWEBサイト	<input type="checkbox"/> 証券会社	具体的に[]
<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・株式関連WEBサイト	具体的に[]	
<input type="checkbox"/> その他		

Q6. 第55期事業報告書はいかがでしたか？

<input type="checkbox"/> 満足	理由[]
<input type="checkbox"/> 不満足	理由[]

Q7. 第55期事業報告書で興味を持った記事はどれでしょうか？(複数回答可)

<input type="checkbox"/> ごあいさつ	<input type="checkbox"/> トピックス	<input type="checkbox"/> 株式の状況	<input type="checkbox"/> 財務諸表
<input type="checkbox"/> その他			

Q8. 事業報告書で取り上げて欲しいテーマをお聞かせください

[]

Q9. 当社のWEBサイトはご覧になりますか？ご意見があればお聞かせください。

<input type="checkbox"/> 毎週見る	<input type="checkbox"/> 月に2~3回見る	<input type="checkbox"/> ほとんど見ない	<input type="checkbox"/> 見たことがない
<input type="checkbox"/> ご意見			

Q10. 当社からの情報提供についてどのような方法を希望されますか？

<input type="checkbox"/> WEBサイト	<input type="checkbox"/> 投資家説明会	<input type="checkbox"/> メールマガジン
<input type="checkbox"/> IR公告	<input type="checkbox"/> 郵送による印刷物	
<input type="checkbox"/> その他		

Q11. 当社のどのような内容を知りたいですか？

<input type="checkbox"/> 中期事業計画	<input type="checkbox"/> 事業戦略	<input type="checkbox"/> 株価政策
<input type="checkbox"/> その他		

Q12. 当社についてご意見・ご希望があれば自由にご記入ください。

[]

株主番号	お名前・会社名
------	---------

↑株主番号は、同封の配当金計算書の左下に8ケタで記入してあります。